

# 国際交流員のコラム VOL.01

## ごあいさつ

はじめまして！国際交流員のアフメドフ・アシルベクです！ウズベキスタンから来ました。

2022年8月から、みなと振興・国際交流課で働いています。



私は、“ウズベキスタンの谷”であるフェルガナ州の出身です。フェルガナ州は緑が多くて、山に囲まれているので“谷”と呼ばれています。また、他の地域に比べ“おもてなしの州”としてウズベキスタン国内では知られています。フェルガナ州は15の地区に分かれて、私はその中のフルカト地区で生まれました。子供の頃、よく牛や馬を飼っていましたので動物好きな人間です。

小さい頃から、国際関係の仕事に強い関心を持っていて、国際関係や国際言語について学べる大学に入ろうと思い、タシュケント国立東洋学大学の日本語学部に入りました。大学3年生の時に、協定大学である京都外国語大学に1年交換留学をしていました。京都外大のグローバルスタディ学科で、英語で国際関係の授業を受け、小さい頃からの夢を叶えることができました。

京都市内の観光地や大きな祭り、豊かな自然に恵まれ、留学生活を送っていました。

今回、神様の恵みによって舞鶴市の国際交流員として選ばれ、海の京都、舞鶴で働けるなんて感無量です。これから舞鶴市の国際交流活動に精を出して、ウズベキスタンと舞鶴市の架け橋としてお役に立ちたいと思います。



▲京都外国語大学留学中の写真



## ウズベキスタンの結婚事情について



ウズベキスタンは中央アジアに位置し、昔は旧ソビエト連邦の一部でした。1991年の旧ソビエト連邦の崩壊とともに独立し、同時に独立国家共同体（CIS）にも加盟しました。

国土は日本の1.2倍の面積を持ち、人口は約3,600万人と日本より少し大きな国土に四分の一の人しか住んでいない国です。国民の約65%が35歳未満と比較的若い人が多い国です。また、ここで暮らす人々の一般的な年収は日本円で50～60万円程度です。

第一回目のコラムではウズベキスタン共和国のウェディング事情について紹介していきます。日常生活の中やラジオ、テレビ、新聞などで、世界中の様々な興味深い文化や伝統について見かけることは多いと思います。皆さん、その中でウズベキスタンの結婚式について見聞したことがありますか？ウズベキスタン流の結婚式の流れを紹介していきます。

### 1. 特別なデート



結婚の始まりは特別なデートからスタートします。数年前までは、両親の勧めで結婚のためのデートに行く男女が多かったですが、最近、そのような習慣はなくなってきて、自由な恋愛関係から結婚する人が増えています。まずは、その特別なデートで男性が女性にゴールドのジュエリーを送ります。

そして両家が顔合わせをして二人の意思を確認し、結婚式の日取りを決めていきます。

一般的には両家の顔合わせから5ヵ月後くらいになることが多いです。その5ヵ月間に様々な伝統的な儀式を行いながら、結婚式の準備を進めます。その中でももっとも重要な儀式が『パタハ』と呼ばれる日本での婚約に当たる儀式です。新郎、新郎の父・祖父・叔父など4～6名程度の新郎側の親戚が『パタハ（婚約）』の確認のために花嫁の家に出向きます。

### 2. 「パタハ」と「母の乳」



新郎側は、婚約の証として季節ごとの衣服や靴、化粧品、ジュエリーなどのギフトを持参すると同時に、大きな鍋に入れた料理やお菓子、果物なども花嫁の家に持参します。この時に結婚指輪も贈りますが、その費用も全て新郎側が負担します。もし何年か後に離婚されても贈ったものは新郎には返されません！また、地域によっては、別の重要な儀式として『母の乳』と呼ばれる新郎側が花嫁に持参金を贈るものがあります。持参金の額は家庭の収入にもよりますが、約10万円～50万円程度です。

ウズベキスタンの西の方にあるハラジム州、ブハラ州、ナボイなどの州にはそうした儀式がまだ残っています。私が住んでいたフェルガナ州には『母の乳』という儀式はありませんが、代わりに羊2頭と結婚式の日には作られるプロフの食材費を贈る習慣があります。新婦側に贈る2頭の羊を数年前から購入し、わざわざ結婚式まで家庭で飼う新郎のお爺さんも大勢います。



### 3. ウエディングプロフ



『ウエディングプロフ』は新郎側が新婦側に贈った持参金の中から食材を買い、作ったプラフ（日本でいうピラフ）を振る舞うのですが、この『ウエディングプロフ』作りの儀式には男性のみが参加できるとのことです。そして、もうひとつ驚きなのが、プロフを作る量です。風習として出席者の倍以上の量を用意してもてなすため、もしこの『ウエディングプロフ』に300名が参加予定だとしたら600名分のピラフを作ることになります！

ここまではとても伝統的なスタイルの結婚に向けての儀式ですが、結婚式当日はかなり雰囲気が変わってきます。結婚式当日はパーティー的な要素が強く、“ラブストーリー”と呼ばれる新郎新婦の紹介動画やウエディングケーキの入刀、レーザービームを使った演出、ダンスショーなど様々なアトラクションで出席者をもてなします。

今回はウズベキスタンの結婚事情についてご紹介しました。いかがでしたか？これからもウズベクの文化や観光、料理、若者たちの姿など様々な情報をお届けしていきたいと思います！

